

科 目	家庭基礎	学年・類型	1 年 普通科・国際文理科	単位数	2
教 科 書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）				
副教材等	家庭科ノート・調理実習ノート（愛媛県高等学校家庭科研究会）				
学 習 目 標	1 生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 2 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、評価・改善、表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 3 よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。				
学 習 心 得	1 基礎的・基本的な知識と技術を確実に身につけるよう、授業を大切にしよう。 2 家庭生活の充実・向上を図るため常に問題意識を持ち、ホームプロジェクト学習にも主体的に取り組もう。 3 学校家庭クラブ活動にも参加し、共に生きることの大切さを、体験を通して学ぼう。				
	単 元		主 な 学 習 活 動		
一 学 期	家庭科の学び方 第1章 生涯を見通す 第6章 食生活をつくる 第7章 衣生活をつくる ホームプロジェクトと学校家庭クラブ		・家庭科の学習内容を知り、家庭科の学習を生活に生かし、地域に広げることが理解する。 ・これからの人生を自分らしいものにしていくためにどのように学習していけばよいのかを学ぶ。 ・日常の食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解する。 ・日常的な食品の栄養的特質や調理上の特性について科学的に理解する。 ・日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族にあてはめる。 ・食品の選択や安全に関する必要事項を学ぶ。 ・基本的な調理実習を学び、日常食を作れるようになる。 ・被服のさまざまな役割を理解する。 ・被服材料の特徴を理解し、組成表示、取り扱い表示、サイズ表示などの意味が分かる。 ・ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の意味と進め方について理解する。		
二 学 期	第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える		・汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ・生涯を通じて持続可能で健康、安全な衣生活が営めるようにする。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・仕事と家庭の両立や、家庭と地域の結びつきについて理解する。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々のかかわりの大切さを学ぶ。 ・子どもに対する理解を深めるために、さまざまな体験をする。 ・高齢期の心身の変化や特徴について学び、高齢者を支える制度や課題を考える。 ・多様な人々のニーズ、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインの理念を理解する。		
三 学 期	第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する		・室内外の環境の安全性・快適性を考慮する必要性を理解する。 ・高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・今までの学習を踏まえ、キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめる。		

評 価 の 観 点 及 び 内 容		評 価 方 法
知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・ 定期考査 ・ 確認テスト
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・ 定期考査 ・ 発表の内容 ・ ワークシートの記述内容 ・ ホームプロジェクト
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	・ 授業に取り組む態度 ・ 家庭科ノートなどにおける記述 ・ 授業中の発言